

仏教壮年会連盟（宗派連盟）非戦平和研修参加レポート

仏教壮年会連盟（宗派連盟）では、9月17日・18日の2日間、各教区連盟の代表者を対象に「非戦平和学習会」が開催されました。

1日目は、築地本願寺において開催された東京教区の「平和フォーラム」に参加、日本被団協代表委員 箕牧智之(安芸教区 明覚寺総代)様より、被爆体験や被団協での活動の様子などをお聞かせいただき学びを深めました。特に印象に残ったのは、イタリアの学生に共命鳥のお話をされたエピソードや、核兵器禁止条約を日本が批准していないことなどでした。

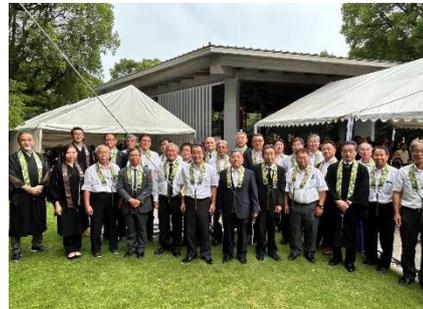


続く班別話し合いでは、「戦争をなくし、平和を築き上げるにはどうしたらよいか」という問いについて話し合いました。



2日目は各班報告と研修のまとめをしました。連盟講師の高田篤敬師からは、大戦時に宗門が教えを曲解し、お浄土と靖国は同じであるとしたこと。兵器の材料として梵鐘など仏具を提供し、それが多くの人の命を奪ったこと。仏教の教えを歪めてまでこのような教えを聞いてしまったのが私たちなのだ。とおっしゃいました。また、足利一之師からは、戦争をなくし平和を築き上げるためには、「私たちがモノを言える環境が大切」とのお話をお示しくささいました。

午後からは千鳥ヶ淵墓苑に移動し、「全戦没者追悼法要」に参加しました。法要に際し発信された「戦後80年にあたっての平和を願うメッセージ」や、宗門関係校生徒作文の最優秀賞を受賞された作文はインターネットに掲載されていますので、ぜひご覧ください。かつて日本は、新聞各社の勇ましい報道合戦の中で大本営が設置・発表され、私達は太平洋戦争に突き進んでいった苦い経験があります。釈尊の開いた仏の教えを心に、私たち国民一人ひとりが、しっかりと政治を見ていくことが大切ではないでしょうか。



報告者 仏教壮年会連盟 評議員

山陰教区仏教壮年会連盟理事長 武田英教